

SUJIN
MEMORY BANK PROJECT 02

BANK —映画「東九条」でつなぐこと—

2018.3.1^{THU} - 4.22^{SUN}

柳原銀行記念資料館





明治32年に柳原町(崇仁地域)の町長であった明石民蔵らによって設立された柳原銀行。柳原銀行記念資料館は、その建物を移築・復元したもので、1997年の開館以来、地域の歴史、文化、生活資料を収集・展示してきました。かつて銀行であった建物には、現在、この地域にまつわる多



様な記録資料が蓄えられています。

「Sujin Memory Bank Project」とは、銀行に貯蓄されている地域の「記憶」をひとときの間お借りし、アーカイブ/ドキュメントについて、地域の歴史について実践的に考察していこうというプロジェクトです。2016年に開催した「Sujin Memory Bank Project #01 デラシネー根無しの記憶たち」では、資料館所蔵の私的な写真を取り上げて展示を行いました。第二回目となる今回は資料館所蔵の映画「東九条」を取り上げ、上映展示を行います。



1969年に公開された映画「東九条」は、差別や貧困といった当時の東九条の厳しい現



実を告発すべく制作された自主制作映画です。映画が映し出すのは1968年の東九条。2004年公開の映画「パッチギ!」も同じ時代と場所を描いています。手持ちの8mmカメラが東九条で営まれる人々の暮らしに深く分け入っていきます。監督を務めたのは山内政夫。現在の柳原銀行記念

2018年3月1日(木) — 4月22日(日)

会場 柳原銀行記念資料館

開館時間 午前10時—午後4時30分 休館日 月曜日、火曜日、祝日

企画 林田新、高橋耕平、見増勇介

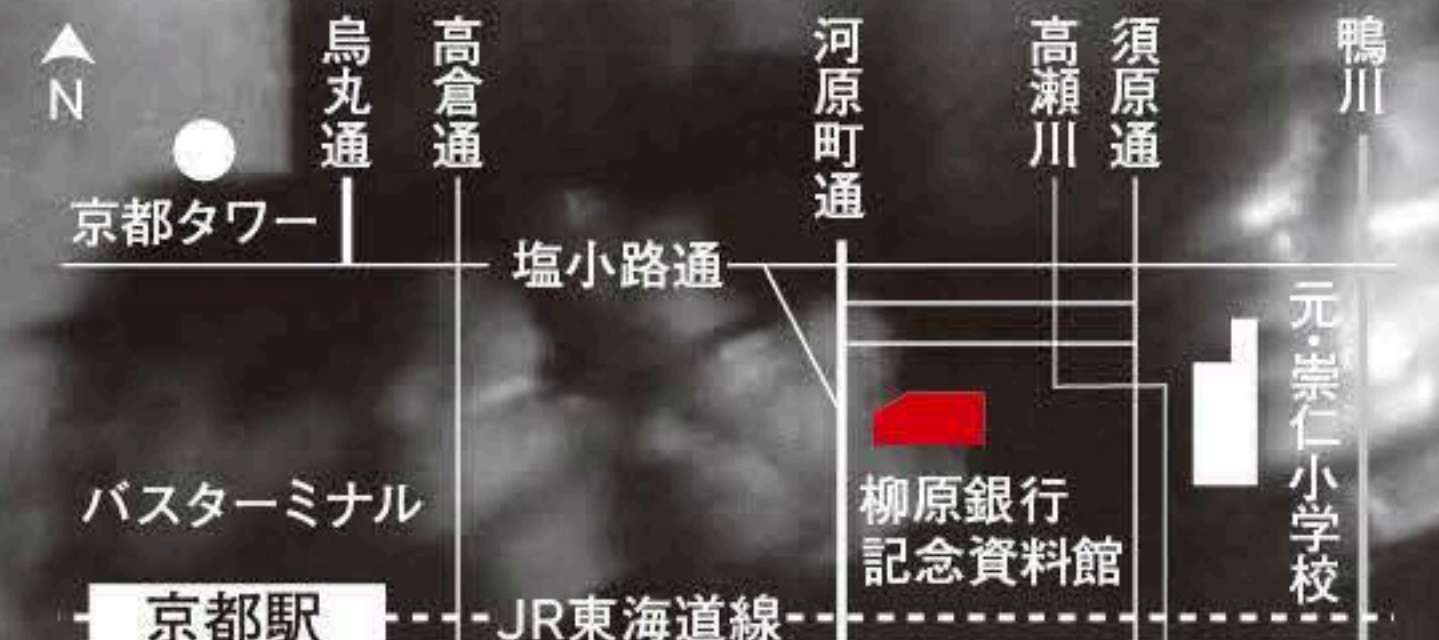
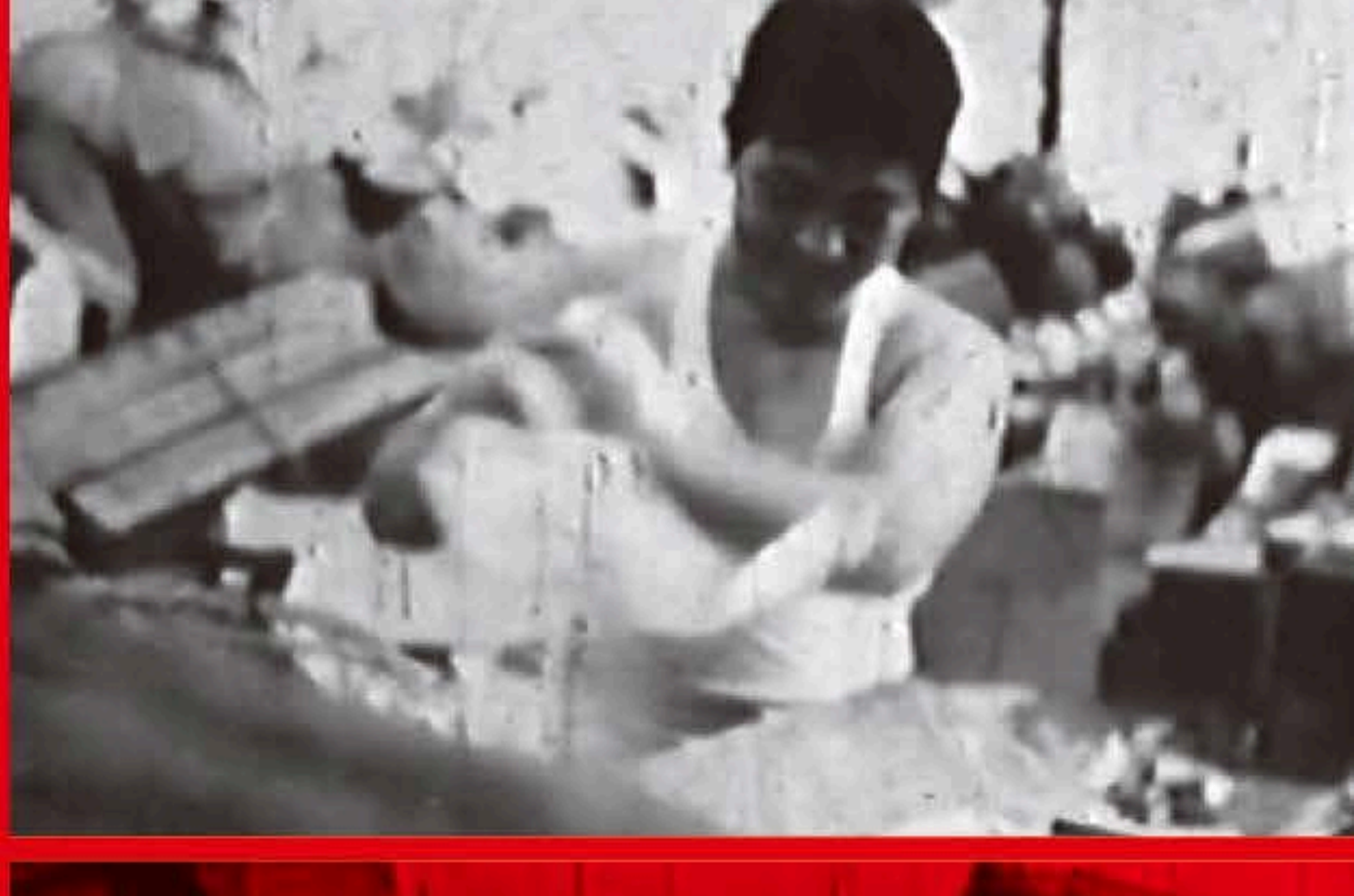
主催 京都市立芸術大学芸術資源研究センター、柳原銀行記念資料館

助成 平成29年度京都市立芸術大学特別研究助成



資料館事務局長です。

東九条が大きく様変わりした現在、この映画がかつて持っていた告発のリアリティは後景に退いています。さらに、資料館が保存するこの映画には当時あったはずの音声トラックがありません。1968年に撮影されてから時を経て、声を失ったこの映画は私たちに何を語りかけてくるのでしょうか。映画の冒頭では、1960年代の鴨川沿いの土手=bankに密集して立ち並ぶ家々が映し出されます。その少し上流、崇仁に建つかつての銀行=bankでこの映画は、過去と現在を、東九条と崇仁をゆるやかに結び合わせていくことでしょう。



柳原銀行記念資料館
JR「京都」駅・地下鉄「京都」駅から徒歩8分
京阪「七条」駅から徒歩10分 市バス「塩小路高倉」下車すぐ
※ 駐車場はございませんので公共交通機関をご利用ください